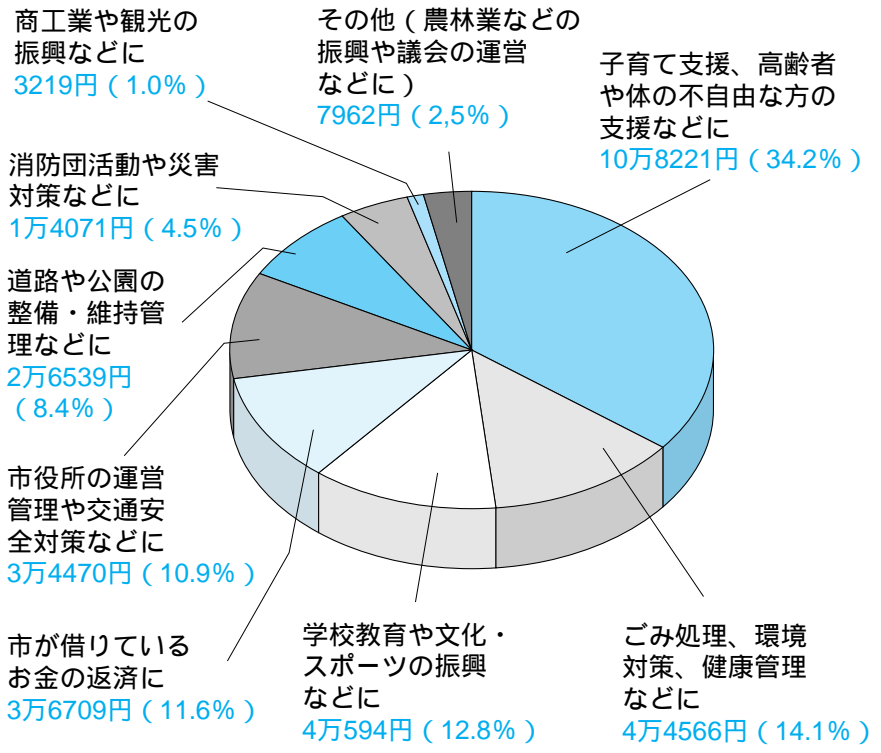


市民 1 人当りに使われたお金 31万6351円の使いみち

(平成21年3月31日現在 総人口 81,620人)



平成20年度決算状況 「あきる野市土地開発公社」 「株式会社秋川総合開発公社」 「新四季創造株式会社」

あきる野市土地開発公社
土地開発公社は、「公有地の拡大の推進に関する法律」に基づき、市の全額出資により設立された資本金500万円の法人です。公有地等の取得、管理、処分等を行うことにより、地域の秩序ある整備と市民福祉の増進に寄与することを目的としています。

簿価総額の縮減を図るため、土地の処分を進めています。平成20年度は面積2万9149.48平方メートルの土地の処分を行いました。

資産概要 平成20年度末の公社の資産総額は、70億2259万5221円です。資産の内訳は、保有土地が面積20万6155.51平方メートルで、簿価総額が7億730万6614円です。また、現金と預金が1528万8607円です。一方、負債

の簿価総額は、70億100万円です。この結果、差引正味財産は、2159万5221円です。

【用語の説明】
簿価額…公社の経理でいう簿価額は、土地の取得原価に借入金利息と管理経費を加算した帳簿価格のことをいいます。

(株)秋川総合開発公社
(株)秋川総合開発公社は、都市計画事業や市街地開発事業等に関する企画、立案、設計の受託業務などを主な業務として、昭和63年に設立された資本金1億円の株式会社です。

出資団体は、あきる野市、あきる野商工会、秋川農業協同組合などです。なお、発行済株式総数2000株のうち、1100株をあきる

新四季創造(株)

新四季創造(株)は、温泉施設などの管理と運営を主な業務として、平成18年に設立された資本金2000万円の株式会社です。

出資団体は、あきる野市、あきる野商工会、秋川農業協同組合、あきる野市観光協会などです。なお、設立に際して発行した株式総数400株のうち、204株をあきる野市が保有しています。

事業概要 秋川渓谷瀬音の湯とあきる野ふるさと工場の管理・運営を行いました。売上高は、工房、温泉、宿泊、レストラン、直売所の収入など4億419万2316円で、経

常損失は735万3668円です。また、当期純損失は833万5968円です。なお、あきる野ふるさと工房については、平成20年9月30日までの上半期のみ運営となりました。

資産概要 平成20年度末の公社の資産総額は、529万6892円です。資産の内訳は、現金や預金などの流動資産が5156万4291円、器具備品などの固定資産が373万2601円です。負債は、未払金などの流動負債で4228万4328円です。この結果、差引正味財産は、1301万2564円です。

平成20年度 決算に基づく 健全化判断比率と 資金不足比率

新たに「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」が制定され、市の財政の健全性を判断する指標として、毎年度決算に基づき健全化判断比率と資金不足比率を算定し公表することが義務付けられました。

健全化判断比率
実質赤字比率、連結実質

結果、差引正味財産は、1億204万7054円です。

あきる野市土地開発公社 貸借対照表

(資産の部) 流動資産+固定資産	70億2259万5221円
(負債の部) 流動負債...	70億100万円
(資本の部) 資本金+準備金...	2159万5221円
負債・資本合計(+)	70億2259万5221円

(株)秋川総合開発公社 貸借対照表

(資産の部) 流動資産+固定資産	2億8142万5725円
(負債の部) 流動負債+固定負債...	1億7937万8671円
(純資産の部) 株主資本...	1億204万7054円
負債・純資産合計(+)	2億8142万5725円

新四季創造(株) 貸借対照表

(資産の部) 流動資産+固定資産	5529万6892円
(負債の部) 流動負債...	4228万4328円
(純資産の部) 株主資本...	1301万2564円
負債・純資産合計(+)	5529万6892円

貸借対照表は、決算時点(平成21年3月31日)で公社(会社)が保有する資産、負債などの財政状況を示したものです。

赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の4つの指標があり、いずれかが国の定める早期健全化基準や財政再生基準以上となった場合は、財政健全化に向けた計画の策定が義務付けられます。

あきる野市は、いずれも基準以下となりました。

実質赤字比率
一般会計等(一般会計、受託水道事業特別会計)の収支が赤字となった場合の標準財政規模(標準的な状態で通常収入が見込まれる一般財源の規模)に対する比率

連結実質赤字比率
全会計(戸倉財産区特別会計を除く)の収支が赤字となった場合の標準財政規模に対する比率

資金不足比率
公営企業会計ごとの資金不足額に対する事業の規模(料金収入)の比率です。あきる野市では下水道事業特別会計が該当しますが基準以下となりました。

実質公債費比率
一般会計の元利償還金(借金の返済)のほか、下水道事業特別会計や一部事務組合の元利償還金に対する一般会計からの繰出金や負担金などを含めた標準財政規模に対する比率

将来負担比率
土地開発公社に係るものを含め、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債(借金の残高)の標準財政規模に対する比率

表1 健全化判断比率 (単位: %)

区分	あきる野市	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	-	12.74	20.00
連結実質赤字比率	-	17.74	40.00
実質公債費比率	9.8	25.0	35.0
将来負担比率	123.8	350.0	-

実質赤字比率と連結実質赤字比率は、実質赤字がないため「-」と表示しています。

表2 資金不足比率 (単位: %)

区分	あきる野市	経営健全化基準
下水道事業特別会計	-	20.00

資金不足がないため「-」と表示しています。